

オーストラリア学会報

Australian Studies Association of Japan

第92号

2021年4月16日

<http://www.australianstudies.jp/>

1. オーストラリア学会 2021 年度全国研究大会のご案内

2011年に起きた東日本大震災・福島第一原子力発電所事故の発生から、今年で10年が経ちます。2021年度全国研究大会は、オーストラリアにも大きな衝撃を与え、日豪関係にも影響を与えたこの出来事を再考し、その教訓と今後の展開を検討することを統一テーマとして、福島で対面にて開催いたします。

※オーストラリア学会会員は、オンラインでの聴講も可能です。

後援：福島大学・福島大学行政政策学類

助成：オーストラリア政府外務省・豪日交流基金

日時：2021年6月12日(土)・13日(日)

会場：福島大学（1日目）〒960-1296 福島県福島市金谷川1番地

※会場アクセス：<https://www.fukushima-u.ac.jp/access/>

ザ・セレクトン福島（2日目）〒960-8068 福島県福島市太田町13-73

※会場アクセス：<http://celecton-fk.jp/access/>

担当：村上雄一（福島大学）・塩原良和（慶應義塾大学）・川端浩平（津田塾大学）

- ◆ 参加の出欠：対面での参加・オンライン視聴のいずれの場合も、事前の参加申込をお願いします。下記 URL または右の QR コードから参加申込フォームにアクセスしていただき、**6月4日（金）までに必ずお申込みください。**

<https://forms.gle/UwzGHb1ovbZNJHBC6>



※非学会員も対面で参加できますが、オンラインでの視聴はできません。

※オンラインでの視聴方法は、後日 E メールにてお知らせします。

- ◆ 参加費：学会員・非学会員とも無料（非学会員が個人報告を行う際には報告料を徴収します）
- ◆ 昼食・飲食について：新型コロナウイルス感染防止対策のため、大会会場で軽食等は準備しません。会場周辺のコンビニ・購買等で各自購入するか、飲食店でご飲食ください。
 - <1日目（福島大学）>（福島大学生協の営業時間は11：00～14：00です）
 - <2日目（ザ・セレクトン福島）>ホテル内・福島駅周辺に飲食店・コンビニ等多数あり（休憩室：本館3階吾妻II）
- ◆ 宿泊先：宿泊施設は各自ご手配ください。

◆ 新型コロナウイルス感染防止対策について

オーストラリア学会では、大会会場施設の方針に基づき、新型コロナウイルス感染防止のためのガイドラインを策定しました。それにもとづき、密集・密接を避け、換気を徹底し、マスク着用、手洗い、清掃などを徹底します。ご来場いただく際は、以下の点にご留意ください。

- ・来場前に検温を行い発熱や風邪等の症状があるか確認し、症状がある場合は参加を自粛してください。
- ・手指の消毒、マスク着用など感染防止対策を徹底して行ってください。
- ・入室時や休憩時間中に「三密」が生じないように行動してください。
- ・参加する前に接触確認アプリのインストールを推奨します。

プログラム：

□第 1 日目：6 月 12 日（土） 会場：福島大学

10:00 理事会（福島大学行政政策学類棟 2 階大会議室）

13:00 受付開始（L 棟 L1 教室前）

13:30 開会セレモニー（L 棟 L1 教室）

司会：永野隆行（オーストラリア学会副代表理事・獨協大学）

開会挨拶：南出眞助（オーストラリア学会代表理事・追手門学院大学）

オーストラリア大使館・豪日交流基金よりご挨拶

14:00-14:45（L 棟 L1 教室）

アーティストトーク 米谷健+ジュリア ※同時通訳あり

「見えない恐怖、絶えない不安と表現の力」

(Invisible Fear, Endless Anxiety and the Power of Expression)

15:00-18:00（L 棟 L1 教室）

豪日交流基金（AJF）助成シンポジウム 1 ※同時通訳あり

「フクシマの教訓」**(Learning from Fukushima)**

司会：生田目学文（東北福祉大学）

報告者：

ピーター・ヴァン・ネス（オーストラリア国立大学） ※オンラインでの報告

ティルマン・ラフ（メルボルン大学・ICAN） ※オンラインでの報告

川崎哲（ピースボート）

細川弘明（京都精華大学・原子力市民委員会）

藍原寛子（ジャーナリスト）

質疑応答・討論

18:00～18:15（L 棟 L1 教室）

オーストラリア学会優秀論文賞授賞式

※懇親会について：新型コロナウイルス感染防止のため、学会主催の懇親会は開催しません。

会員同士で会食される場合は、感染予防を徹底して各自の責任で実施してください。

□第 2 日目：6 月 13 日（日） 会場：ザ・セレクトン福島

10:00-12:00 一般個別研究報告（西館 3 階安達太良 I・本館 3 階吾妻 I）

12:00-13:00 昼食休憩（休憩室：本館 3 階吾妻 II）

理事会（本館 3 階吾妻 I）

13:00 総会（西館 3 階安達太良 I）

14:00-16:30（西館 3 階安達太良 I）

豪日交流基金（AJF）助成シンポジウム 2： ※日本語・同時通訳なし

「フクシマから始まる越境：オルタナティブを考える」

司会：塩原良和（慶應義塾大学）

報告者：

アレクサンダー・ブラウン（シドニー工科大学）

※オンラインでの報告

「越境する資源、越境する社会運動：もう 1 つの日豪関係史に向けて」

若松亮太（モナシュ大学） ※オンラインでの報告

「破壊から希望へ：原発災害後の海外移住が意味するもの」

川端浩平（津田塾大学）

「多文化的実践と放射能汚染：福島の朝鮮学校コミュニティのフィールドワークから」

質疑応答・討論

16:30 閉会挨拶

2. オーストラリア学会 2021 年度全国研究大会 豪日交流基金 (AJF) 助成企画の概要

アーティストトーク 米谷健+ジュリア 「見えない恐怖、絶えない不安と表現の力」 (Invisible Fear, Endless Anxiety and the Power of Expression)

振り返れば、2011 年の福島原発事故のキノコ雲からコロナパンデミックまで、実に恐怖と不安に満ちた 10 年であった。

アーティストとして手掛けてきた作品の多くは、自分たちが抱える「不安」がモチベーションとなって制作したものばかりだ。福島原発事故に 대응べく制作した作品『クリスタルパレス:万原子力発電国産業製作品大博覧会』では、放射能という見えない物質の恐怖を可視化した。2019 年間から作り始めた新作『Dysbiotica』では、ウイルスを含む微生物世界のバランス崩壊を描いた。制作中、世界は想定外の「不安」に満ちたパンデミックに突入したのだ。

その 10 年の間、オーストラリアと日本を股にかけながらの生活で、実は自分たちの見方もかなり変わってきた。きっかけは近年我々が移り住んだ京都の農村における無農薬百姓の実践であった。農作業では、土の観察を通して、肉眼では見えない「微生物の世界」が観られたその悟得こそ何よりも貴重な収穫であった。

見えない世界は恐怖だけで成り立つわけではなく、ミクロの世界は全てと結びついていて、ミクロからマクロまで連鎖的に繋がり、絶妙な均衡を保ちつつこの世界を形作っている。そのバランスが崩壊した今、人類は世界観の変革が問われているのではないだろうか。(企画担当:川端浩平)

<プロフィール> 米谷健+ジュリア

アートユニット、現代美術家、及び百姓(無農薬農家)。環境問題や社会問題などをテーマに入念なりサーチを行い、独自の手法で美しくも不気味なものへと転換する作品は、インスタレーション、ビデオ、パフォーマンスなど多岐にわたる。ヴェネチア・ビエンナーレ(オーストラリア代表、2009)、シンガポール・ビエンナーレ(2013)、茨城県北芸術祭(2016)、ホノルルビエンナーレ(2017)、オーストラリア国立美術館にて個展(2015)。角川武蔵野ミュージアムにて個展(2021)。近年は京都の農村で無農薬農業も営む。

健) 東京生まれ。東京外為市場で金融ブローカーとして 3 年間勤務。退職後は紆余曲折を経て沖縄の伝統陶芸壺屋焼き陶工金城敏男に師事(00-03 年)。その後 05 年オーストラリア国立大学アートスクール修士号、'12 年シドニー大学カレッジオブアーツ博士号取得。'09 年ヴェネチア・ビエンナーレ豪州代表に選出。

ジュリア) 東京生まれ。ニューヨーク、ロンドン、シドニーで育つ。シドニー大学法学部卒、'96 年東京大学国際関係学部修士号取得、'99 年オーストラリア国立大学博士号取得(専攻は歴史)、ニューサウスウェールズ大学日本学准教授、ウエスタンシドニー大学研究員を経て、'09 年よりアートの道に。

URL: <http://kenandjuliayonetani.com/ja/>

シンポジウム 1

「フクシマの教訓」(Learning from Fukushima)

世界史上最悪の原子力(核)発電所爆発事故(事件)が東京電力福島第一原子力発電所で起きてから 10 年が経過しようとしている。その教訓から、東アジアを含む多くの国々が脱原発や再生可能エネルギーへの転換を推し進めてきている一方、日本では原子力発電所の再稼働や再推進に向けての動きが着々と進んでいる。

このシンポジウムでは、同名書『フクシマの教訓』(2019)の日本語訳を担当した生田目学文(東北福祉大学)をコーディネーターに、オーストラリアからは編著者のピーター・ヴァン・ネス(オーストラリア国立大学)とノーベル平和賞を受賞した ICAN 創設メンバーで執筆者の一人であるティルマン・A・ラフ医師(メルボルン大学)を、そして、日本からはピースボート共同代表であり ICAN 国際運営委員の川崎哲、原子力市民委員会事務局長の細川弘明(京都精華大学)、および、福島市出身のジャーナリスト藍原寛子(Japan Perspective News 株式会社代表)を招き、この 10 年を振り返り「フクシマ」から学んだ/学ばなかった教訓とは何であったのか、それぞれの立場から報告を行った後、フロアからの質疑も受けつけながら討論を行う。(企画担当:塩原良和・村上雄一)

シンポジウム2
「フクシマから始まる越境：オルタナティブを考える」

2021 年は、2011 年 3 月の東日本大震災と福島原発事故の 10 周年である。今大会 1 日目のシンポジウムでは、福島原発をめぐる問題が現在も続いており、多くの土地や人々に影響を及ぼしていることを踏まえたうえで、事故とその後の経緯から私たちが得られる教訓を日本、オーストラリア、国際社会の視点から検討する。そこで 2 日目の本シンポジウムでは視点を換え、福島原発事故がもたらした影響を、民族や国家の境界を越えた人のつながりの形成や変化、という視点から考察してみたい。日本を含むトランスナショナルな社会運動は、あの出来事をどのように受け止め、展開していったのか。「避難者」たちはどのようにして県境を越え、やがて国境を越えていったのか。そして、歴史的に存在してきた民族的マイノリティ-マジョリティの関係は、どのように変容したのか。そうしたつながりをたどりながら、移民・難民とグローバル化するレイシズム、そして「人新世」の時代における人々の生と人文社会科学の関係を再考したい。(企画担当：塩原良和)

3. オーストラリア学会 2021 年度全国研究大会 一般研究報告者および報告要旨

第1分科会：6月13日(日)10:00-12:00【西館3階安達大良I】

司会 濱野 健 (北九州市立大学)

※対面とオンラインのハイブリッドで実施します

(報告1)「トランスナショナリズムとインテグレーションの視点からみるオーストラリアにおける日本人天理教布教師の諸活動についての考察」

尾上貴之 (天理大学附属おやさと研究所)

(要旨) 移民研究のなかで、移民の母国の宗教が、移住先のホスト社会にどのようにかかわり、展開しているかは、主要なテーマの一つであると考えられる。本報告では、日系新宗教の一つである天理教を事例として、トランスナショナリズムとインテグレーションという2つの視点から、オーストラリアに在住する日本人布教師たちの諸活動を分析し、日本との紐帯を保持しながら、ホスト社会に適応しようとする日本人の生きざまについて考察したい。

(報告2) “Life style migration to Australia -with gender perspectives”

ASAI Toshio/浅井寿生 (名古屋外国語大学 言語教育開発センター)

(要旨) There has always been marriage migration from Japan to the West, and particularly Australia has been a popular destinations for it. These Japanese migrants are not always originally targeted to marriage migration, but usually starts with study abroad, tourism or/and working holiday program (Hamano 2014). While marriage can be a pull-factor of migration to Australia, there should be more focus on push-factors in Japanese society. According to Nagatomo (2013) Japanese migrants used to be forced by economical reasons, but today migrants are seeking a better lifestyle overseas. Based on the interviews, the Japanese living in Australia often have a strong doubt about Japanese lifestyle such as overwork culture and gender inequality at work and home. This research will seek the detailed pushing reasons of their migration to Australia into personal level by qualitative interviews. This article will explore and compare lifestyle Japan and Australia have to offer with particular focus on work and education with gender perspectives.

(報告3) “Valorization of speaking Chinese from the perspectives of Chinese immigrant parents in Australia”

LI Jia/李圭 (Yunnan University)

※オンラインにて報告予定

(要旨) In Australia, China has emerged as the second largest source of immigrants behind England, followed by India, New Zealand and Philippines by 2018. Chinese immigrants of diverse backgrounds predominantly inhabit urban locations in Australia. Based on a larger ethnography conducted in Sydney from June 2017 to May 2019 (Wang, 2020), this study investigates the language perceptions of

speaking Chinese from the perspectives of newly arrived Chinese immigrant parents. Data were collected through semi-structured interviews and triangulated by informal conversations and online interactions via WeChat. Seeing language as pride and profit shifting between communities beyond local and national boundaries (Duchêne & Heller, 2012), this study reveals that Chinese immigrant parents overwhelmingly desire for maintaining their children's Chinese language, and their language aspirations are manifested prominently in the socioeconomic values over the traditional cultural and ethnic discourses. However, the value-laden calculation of speaking Chinese also encounters contradictions in the monolingual ideologies of speaking English as the gatekeeping power for success and Mandarin as the only legitimate variety for global mobility. We close by offering relevant implications for maintaining the resilience of heritage language among Chinese diaspora in Australia and beyond.

第2分科会：6月13日(日)10:00-12:00 【本館3階吾妻1】

司会 杉田弘也 (神奈川大学)

(報告1) 「ターンブル (元) 首相の 18C 改正の主張の矛盾点と正当化」

仲西恭子 (園田学園女子大学)

(要旨) オーストラリアで数年おきに政治議題として持ち上がる人種差別禁止法 18C 改正問題を取り上げ、同法制定に至るまでの歴史的・政治的経緯と関連する訴訟事件、人権に関する連邦議会合同委員会の提言について概観したあと、あらたな改正議論の火種となった 2017 年 3 月のターンブル (元) 首相のスピーチを Wodak (2016) の談話の歴史的アプローチを用いて分析し、「表現の自由」に論点をすり替えた (元)首相の主張の正当化の手法を明らかにする。

(報告2) “Improving Supply Chain Resilience by Introduction of New System Architecture--with a focus on case study in Australia”

CUI Yu/崔宇 (追手門学院大学)

(要旨) In this research, firstly, through analyzing the case of supply chain damage caused by human factors, we conclude a conception which enhances and strengthens Supply Chain Resilience (SCR) through building a new system architecture. Secondly, we propose a conceptual model which introduces some features of decentralized system architecture based on blockchain technologies, such as new consensus mechanism and smart contract into traditional supply chain systems so that issues mentioned above will be solved and SCR can be improved. Thirdly, through the conduction of case studies, the applicable domains and supply chain types of conceptual model and proposed system architecture are demonstrated. Furthermore, we identify some unsettled issues and drawbacks derived from coexistence of both system architectures and indicate the solutions regarding these challenges.

4. 会費納入のお願い

年会費の請求は年度の始まり 4 月に行いますが、年会費が納入されると、納入時期にかかわらず未払い年度がある場合そこへ充当されます。たとえば 2021 年 5 月に年会費を納入しても、2020 年度未払いの場合、それは 2020 年度の会費となります。すなわち、2021 年度は未納ということになります。また 2019、2020 年度未払いの場合、2019 年度分の会費納入になります。

<会費が未納となっている会員の皆様へ>

会費が未納の皆様へは、請求を別便にて送付します。未納年度分 (2020 年度を含め最多 3 年) を速やかに振込票にて納入願います。未着の方はアカデミーセンター「オーストラリア学会」担当宛てまでお知らせ願います。なお、会費振込票に会員名の記載がない場合、振込会員を特定できないため、必ず会員名をお書きください。また原則領収書は発行しておりません。郵便振替票の受領書などをご利用願います。

会費未納の会員の皆様には、当該年度の会費納入が確認され次第、学会誌『オーストラリア研究』(現在 2021 年 3 月発行、第 34 号) までをお送りしております。事務局では 3 年分の在庫を保管しておりますので、順次発送しておりますが、お手元に届くまで若干時間がかかる場合もあります。会費納入にもかかわらず未着の

学会誌がありましたら、恐縮ですが、学会事務局（アカデミーセンター）にご連絡ください。

5. 「マイページ」登録と内容更新のお願い

オーストラリア学会では会報の電子化を進めて参りました。2019年度まで学会直前号のみ他の配布物と併せ紙媒体で発行していましたが、2020年度より学会直前号を含むすべての会報を電子化しました。会報電子版は学会ウェブサイトに掲載されますが、発行のお知らせは「マイページ」に登録された電子メール宛てに送られます。アドレスの登録・確認・更新をお願いいたします。

マイページ URL : <https://www.bunken.org/asaj/mypage/User>

6. 『オーストラリア研究』投稿募集および研究文献目録掲載のお知らせ

オーストラリア学会では、『オーストラリア研究』に掲載する論文を募集しています。投稿はいつでも受け付けております。2020年1月21日付で投稿要領を改訂しました。改訂版の投稿要領・投稿申込書・投稿先はウェブサイトをご参照ください。投稿申込書もウェブサイトからダウンロードしてください。2022年3月刊行予定の第35号の投稿は2021年8月末で締め切ります。不明な点などがあれば、編集担当理事・塩原良和 (shiobara@law.keio.ac.jp) までお問い合わせください

第12号以降、会員の研究文献目録を掲載しております。引き続き会員の協力をお願いします。発表された著書、論文、報告書、翻訳などの中から、オーストラリア学会の趣旨に関係する研究文献を選び、電子メールでお知らせください。締め切りは2021年10月30日です。記入例はバックナンバーを参照し、掲載書式に準ずる形でお送りください。

投稿先：〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター「オーストラリア学会」担当

TEL : 03-6824-9372 FAX : 03-5227-8631 Email : asaj-post@bunken.co.jp

『オーストラリア研究』ウェブサイト : <http://australianstudies.jp/publish/index.html>

7. 新刊書のご案内

アンドリュー・ボヴェル著、佐和田敬司訳『聖なる日／闇の河／その雨が降りやむとき（オーストラリア演劇叢書13）』オセアニア出版社、2021年3月刊行、B5判、186頁、2,000円＋税

オーストラリアで最も重要な劇作家の一人アンドリュー・ボヴェル（Andrew Bovell）の作品集。本年3月の劇団俳小による『聖なる日』日本初演を記念して出版。一昨年エディンバラ国際芸術祭で好評を博した『闇の河』（原作 Kate Grenville）などの戯曲も収録。

【諸届出／連絡先】

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター「オーストラリア学会」担当

TEL : 03-6824-9372 FAX : 03-5227-8631 Email : asaj-post@bunken.co.jp

【オーストラリア学会事務局】

〒340-0042 埼玉県草加市学園町 1-1 獨協大学外国語学部 永野隆行研究室気付

TEL : 048-943-1242 Email : tnagano@dokkyo.ac.jp

会費振込先：00190-3-157063 加入口座名：オーストラリア学会

※ 本会報は学会記録のほか、会員からのご意見や著書・新刊情報などを掲載します。学会事務局までお送りください。なお紙面の制約上、掲載できない場合がありますことをご了承ください。

[編集担当：藤岡伸明（静岡大学）／編集協力：小野塚和人（神田外語大学）]